

ヘーラーの栄光

ヘーラーの母乳は飲んだ人間を不死身に変えてしまう力があつた。ゼウスは生まれた我が子にヘーラーの母乳を飲ませようにし向けた。このとき、その赤子の乳を吸う力があまりにも強がつた為、ヘーラーはびっくりして赤子を突き飛ばしてしまつた。その際に飛び散つた母乳が天の川になつたと言われる

なお、後にその赤子はヘーラーの子ではないが「ヘーラーの栄光」の名を持ち、神の座に着く時ヘーラーの娘ヘーベーを妻として与えたりとされている



memo



HERA



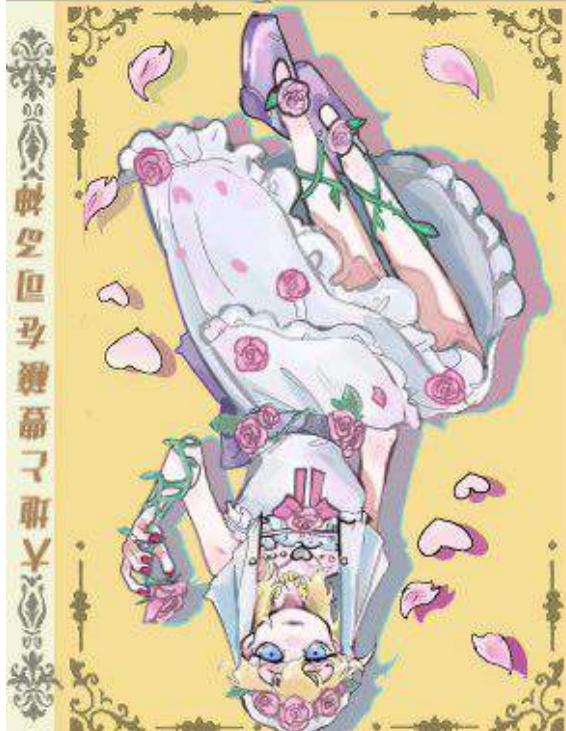
ペルセポネーの略奪

デーメーテールの娘ペルセポネーは冥界の王ハデスに一目惚れされ冥界に連れ去られてしまった。

しかし、ゼウスがハデスを唆しペルセポネーを拉致させたことを知った。デーメーテールはこれに激怒し、天界を捨て老女に変身し地上に下った。

農穀の女神であるデーメーテールがいなくなつた地上の大地は荒廃していった。それに困つた神々は彼女とハデスを説得し、冥界の柘榴と知りないで食べてしまつたペルセポネーの残りの寿命の1/3を冥界で残りをデーメーテールの下で暮すことで和解し地上の土地は雨が降り実り豊かになつた。

memo



アネモネと薔薇

とある王国の女王が女神の嫉妬を買ひ呪いにかけられ自身を木に変えられてしまつた。彼女は子を身ごもっており、その赤子は木の幹の中で育つた。やして生まれ落ちたのがアドーニスである。

アプロディーテーはこのアドーニスの美しさに惹かれ、彼を自らの庇護下においた。だが、アドーニスは狩猟の最中に猪牙にかかって死んでしまった。女神は嘆き悲しみ、自らの血をアドーニスの倒れ方大地に注いだ。その地からアネモネが咲き彼女が流した涙からは薔薇が生じた。その後、アプロディーテーはアードニスの死後彼を祀ることを誓った。

その後、アプロディーテーはアードニスの死後彼を祀ることを誓った。



memo



聖樹の月桂樹

ダブナーはギリシア中部を流れる
テッセリアの河神の娘である。
ある日アポローンは大蛇退治した
帰途で偶然、性愛の神であるエロス
に出会った。アポローンは彼の持つ
小ヤハズ弓を馬鹿にした、怒ったエロ
スは仕返しに愛情を生む黄金の矢で
アポローンを撃ち、愛情を拒絶する
鉛の矢で通りすがったダブナーを射
たもちろんアポローンはダブナーに
愛情を抱いたが彼女は彼を拒絶した。
それでもアポローンは彼女を奪おう
と追いかけ無理矢理彼女に触れた、
ダブナーは拒絶するあまり月桂樹に
身を変じてしまった。

失意のアボローンは「せめて私の聖樹になって欲しい」と頼むと、ダブナーは枝を揺らし月桂樹の葉をアボローンの頭に落とした。



memo



軍神アレス

アレスはゼウスとヘラの間に生まれた子でありアテナやアポローンを兄弟とし、血筋がら圧倒的な美貌と戦闘能力に特化していた。

アレスはほがの神々と違い常に争いや戦いを好んだ。そのためアレスは戦場の場でも常に先頭をかけ走つ方と言われている。また、その強く勇ましい姿から人々に赤やしく光る火星のようだといわれていた。だが彼は戦闘に特化していく分知性に欠けており頭脳派のアテナとの喧嘩や細かい作戦の組まれた戦争においては圧倒的に不利だったそのためそれらの攻撃から身を守るために鎧を身にまとうようになった。

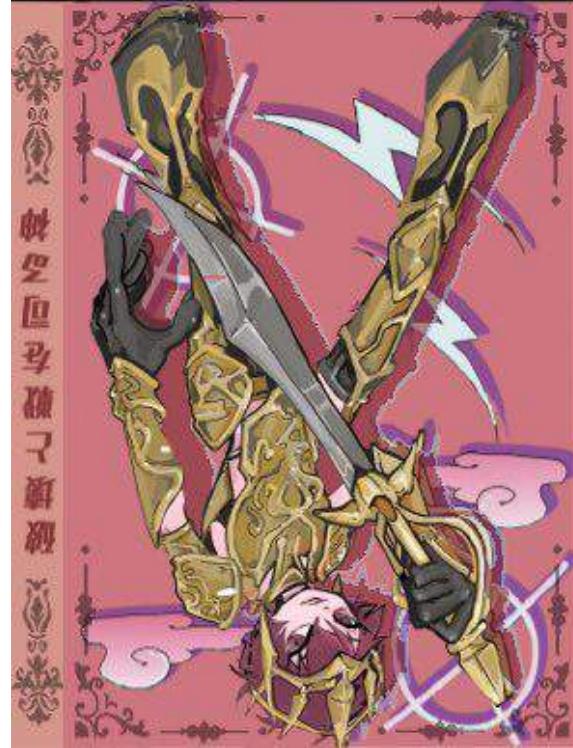


memo

Check list



ALES



ギガントマキア一戦

ティーターン族をタルタロスに幽閉したゼウス達に対して地母神であるガイアは怒りで多くの神に殺されるごとのない巨人族のギガース達を生み出した。

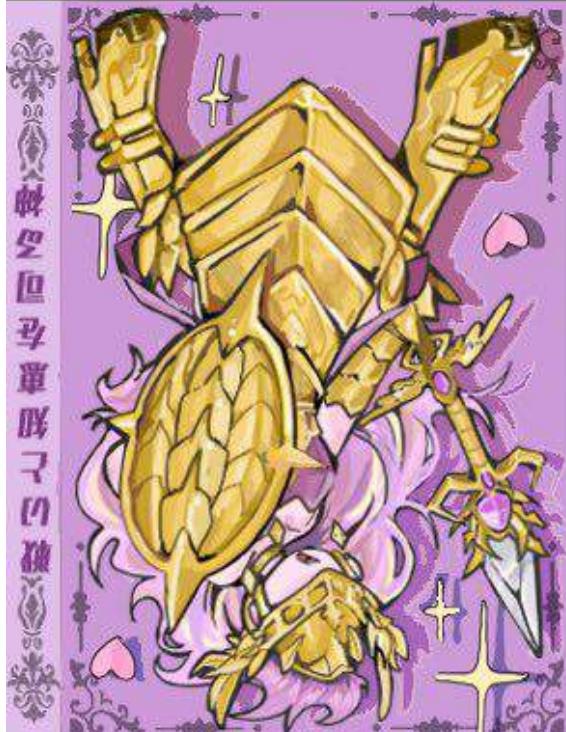
ガイアは彼らを使いゼウスを脅かし戦を仕掛けた。これがギガントマキアーの始まりである。

この時、ほかの神々が苦戦している中アテナはギガースの中で最も強力なエンケラドスと戦い博識な戦略により無人島の中に封印したといわれる。

また、アテナはギガースの一人であるパッラースという半人半竜を倒しての強力な皮で盾を作ったというそのためパラス・アテナと名乗るようになつたと言われている。



memo



奇形児の鍛冶神

セウスは前妻でアルテミスとの間に二組の三姉妹を設けていた。セウスが前妻との間に立派な子を設けたことに集ったヘーラーが、正妻としての名譽を挽回するべく産んだ子供がヘーパイストスである。

しかし、生まれたヘーパイストスは両足の曲がった醜い奇形児であつた。これに怒つたヘーラは、生まれたばかりの我が子を天界から地上の海に投げ落とした。この失態がばれ、ヘーラーは正妻としての両目を失つた。

その後、ヘーパイストスは海の女神に拾われ、9年間大切に育てられた。後に天に帰るとキュクロプスらを従え、自分の工房で様々な武器や道具を製作している。



memo



HEPHAISTOS



アポローンの牛

ヘルメースは生まれて間もない頃アポローンの飼つてい大牛50頭を盗んだ。やうに証拠品を燃やし足跡までも偽装した。翌日牛たちがいないことに気づいたアポローンは占いによりヘルメースが犯人であると知り牛を返すように迫るが彼は「生まれたばかりの自分にはできない」と嘘吹いた。それを見たゼウスは盗みと虚言の才能を見抜き、牛を返すよう勧めた。ヘルメースはそれに納得いかず、洞穴に籠り龜で作った自作の竖琴を奏でていた。それを見たアポローンはその竖琴が欲しくなり牛と竖琴を交換することでヘルメースを許した。

気を良くしたヘルメースは葦笛を贈り、アポローンはケリュケイオンの杖をヘルメースに贈った。



memo



HERMES



オリオン座

ボセイドンの息子であるオリオンは陸でも海でも歩くことができる豪腕の持ち主であり、ギリシア一番の獵師であった。狩猟の女神であるアルテミスは彼と次第に仲良くなつていった。だが、それをアルテミスの双子の弟であるアポローンは二人の関係を快く思わなかつた。

そこでアルテミスの弓の腕をわざと馬鹿にし、「あれを射ることができるか」と遠くの海に浮く岩石を指し挑発した。アルテミスは矢を放ち、それに見事命中させた。だがそれは海を泳いでいたオリオンだったのだ
翌日浜辺にはアルテミスの矢が刺さったオリオンの死体が浜辺に打ち上げられていた。悲しんだ彼女は彼を忘れないよう天に上げ星座にした

翌日浜辺にはアルアミスの死体が浜辺に打ち上げられていた。悲しんだ彼女は彼を忘れないよう天に上げ星座にした。



memo



ティーターノマキアー

ポセイドーンの兄弟は、王位篡奪を恐れたクロノスによって呑み込まれていったが、ゼウスによって救出された。それにも怒ったクロノスは巨人族を率いて大戦を興した。

ポセイドーンはオリュンポス側としてクロノス率いる巨人族との戦いティーターのマキアーに参戦し、ゼウスやハデスと共に戦った。

その際、彼はキュクロプスから海と大地を操ることのできる三叉の矛を贈られ、彼はそれによって宇宙を搖すぶり、ゼウス達との共闘によって巨人族を敗北させた。

後に三叉槍は彼の主要な武器トライデントとなつた。



memo



POSEIDON



葡萄酒と酩酊

ディオニュソースは葡萄栽培などを身につけて、ギリシアやエジプト、シリアなどを放浪しながら、自らの神性を認めさせてるために、信者の獲得に勤しんだ。

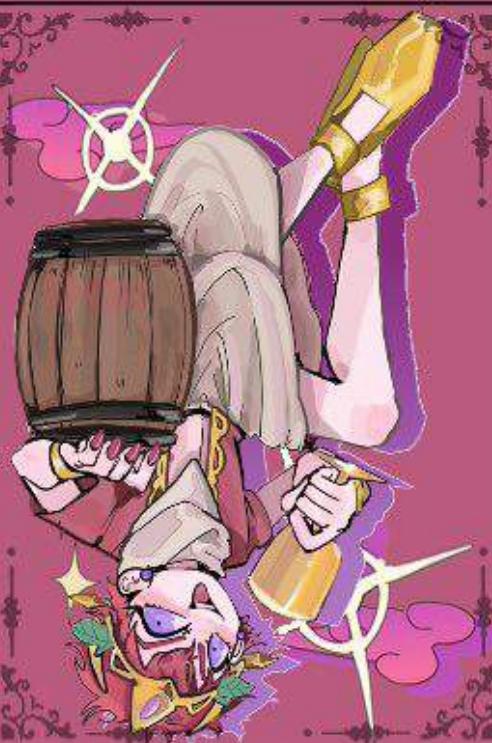
各地を遍歴していく太彼はどある村で農夫のむてなしが受け、それに大変感謝した彼は返礼として葡萄の栽培とワインの製法を伝授した。農夫は、出来上がったワインを山羊皮の袋に入れ、村人達に振る舞つたが、初めて酒を飲んだ村人は酔いが理解できず毒を盛られたと思い農夫を殺害してしまつた、それを知つたディオニーユソスは怒りかがしんだ。やがて誤解と知つた村人達は悲しみ彼を供養した、その後村は葡萄酒の産地となつた。



memo



DIONYSOS



王位簒奪戰爭

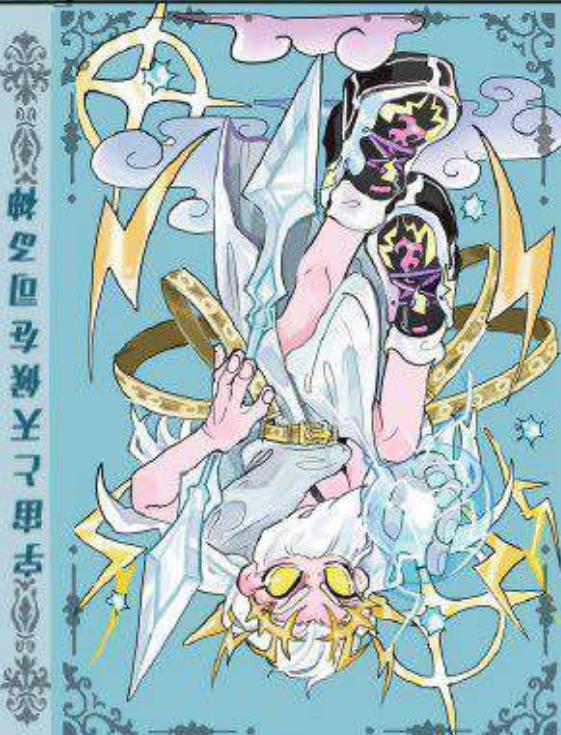
ゼウスの父は我が子に支配権を奪われる不安がら、自らの子供達を飲み込んだ、それに気づいたゼウスの母レアーレは代わりに石を飲ませゼウスを守った。

母12歳の成り立ったゼウスは飲み込まれてしまつた兄弟達を吐き出せさせた。ゼウスと共に彼らは親父12復讐として全宇宙の支配権を巡る戦争を勃発させた。ゼウス達はクロノスなどのティーターン神族を打倒し、宇宙の深淵にあるタルタロスに封印された。

その後勝利をおさめ、ゼウス、ポセイドン、ハーデスはそれやれ天界、海界、冥界の主となつた。



memo



2

February

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat

30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 星期六	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 星期日	24	25	26
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12



memo



卷之二十一

七言七言詩